

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	齋藤 悠真	学校名	私立 国本小学校
教科（科目）・領域	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6年けやき・ひのき組（50名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年4月～2023年2月（60時間）		

## 【単元構成】

1. 単元名（活動名）：自分たちができること！SDGsを国本小学校から広めよう！		
5年1学期	小単元①③ ・自分たちの世界・環境に興味を！ ・SDGs17の目標とは ～調べて、感じて、考えよう！～	小単元② 自然から生み出す！ ～草木染めから茶道体験まで～
5年 2、3学期	小単元④ 企業に学べ！SDGsの取り組み！ （伊藤園・BANDAI・サミットストア・ アトリエシムラなど）	小単元⑤（2021年度 JICA 地球ひろば 国際理解教育/開発教育 指導者研修にて発表） 国本小学校×サミットストア 喜多見にSDGsの意識を広めよう！
6年1学期	小単元⑥ 世界の状況や取り組みを感じてみよう！ ナッツのSDGs（オーストラリア大使館商務部）／ウクライナからの難民受け入れ 世界のゴミ問題（JICAMAGAZINE）	
6年2学期	小単元⑦ “届けよう、服・本のチカラ”プロジェクト！SDGsを国本小学校から！ （UNIQLO “届けよう服のチカラ”プロジェクト ／BOOKOFF 査定店舗体験プロジェクト）	
6年3学期	小単元⑧ これからの自分たちができること！考え続けなければいけないこと！ ～何をやめるべきか？何を残すべきか？新たに創るべきものは何か？～	

## 【実施概要】

1. 小単元名（活動名）：“届けよう、服・本のチカラ”プロジェクト！SDGsを国本小学校から！					
2. 実践する教科・領域：  総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 小単元⑦の目標： ・企業としてのSDGsに対する活動を知ることによって服や本のリユースについて向き合い、自分たちのできる活動内容を考え、工夫して実行に移す。 ・自分たちの活動を通して、自分たちができる「行動」や「協力」を見つめ直し、行動や活動へとつなげる。					

5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際機関だけでなく、様々な団体・企業が SDGs に関する取り組みを行っていることを理解している。</li> <li>難民問題は地球規模の様々な課題とつながっていること、課題解決の必要性、問題を解決するために様々な取り組みが行われていることを理解している。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のための計画は、解決の見通しをもって、何を目指し、そのために何をし、どんな工夫が必要なのかを意識している。</li> <li>計画したことをわかりやすくまとめ、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えている。</li> </ul>
	③学びに向かう力	<ul style="list-style-type: none"> <li>服や本を集めるための活動では、自他の考えのよさを生かしたり、役割分担をしたりして、協働して課題解決に取り組んでいる。</li> <li>自分達の取り組みが社会地域貢献になっていることを実感することで、今度自分自身でできることを見つけ、今の生活を見直そうとしている。</li> </ul>
6. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b> 現代社会において、様々な環境問題や「SDGs」という言葉は子どもたちにとってとても身近な存在である。また、教科書に関連単元が挙げられていたり、私立中学校受験にも取り扱われたりする中で、子どもたちや保護者、世間の関心は増える一方である。しかし、実生活の中では、環境問題や難民問題と自分たちの生活とを関連付けたり、SDGsの17の目標を達成するためにエコ活動に取り組んだりしているとは言い難い。そこで、国際機関や企業のSDGsに対する活動を理解することで自分たちの知見を増やし、実際に体験につなげることで、自分たちができる「行動」や「協力」を見つめ直し、よりジブンゴトとして考えることができるだろう。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b> 学習に対して意欲的に取り組む児童が多く、自分の考えをもつことができている。しかし、コロナ禍において、それを他者に伝える活動や行事が減っているため、表現力の向上や発表に対するモチベーション、コミュニケーション能力が低いのも事実である。また、昨年度からSDGsについて勉強をはじめたものの、海外も旅行でしか知らない子どもたちが多く、SDGsや17の目標、国際的な問題などについては規模が大きすぎるため想像しにくく、子どもたちの感覚からは大きくかけ離れている。そこで、自分たちの知っている企業の活動を学習の種にし、そこで行われているエコ活動やSDGsの取り組みを探り、自分たちも模擬体験することで、よりその活動が身近なものとして実感できるだろう。</p> <p><b>【教材観】</b> 本単元では、はじめに子どもたちと「持続可能な社会」について保護者と考える機会や友達とその考えを共有する機会を設けることで、より自分たちの生活の中の身近な問題として捉えることができる。 私学の特性もあり、家庭の教育に対する意識が高い分、協力を仰ぎやすい。また、子どもたちは知識が豊富であるが、経験値が乏しい。また、コロナ禍ということもあり、校外学習も思うようにいかない。そんな中で、学校・学園内でアクションを起こせるプロジェクトを遂行することで子どもたちのモチベーションも上がるのではないかと考えた。 また、実際の活動を学園関係者や保護者にお見せすることで、より効果的に活動発表ができるため、子どもたちの学習意欲も高めることができるだろう。</p> <p><b>【指導観】</b> 5年次に国語や家庭科、総合的な学習の時間で本単元の小単元⑤まで行い、ある程度のSDGsに対する考え方や日本企業の取り組みなどを学習したことに関連付け、発展的な内容で進めていきたい。今回は、UNIQLO・BOOKOFFと連携し、出張授業にて学習課題を子どもたち自身で考え、体験型の学習やその過程で得たものをまとめ、発表する学習は、プロジェクト型の学習で、子どもたちが興味関心を持ち、探究的に課題を解決していくことができるようにする。</p>	

7. 単元計画 (全50時間)			
※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。			
時	ねらい	学習活動	資料など
小単元 ① 1～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題に興味を持つ。(総合)</li> <li>環境問題の解決に向けて、声を上げたセヴァンスズキさんについて考える。(道徳)</li> <li>エシカルマークの存在を知る。(国語)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月22日が Earth Day であることを知る。</li> <li>自分たちの知っている環境問題を出し合い、動画を視聴後、感想を伝え合う。</li> <li>リオの伝説のスピーチに関する動画を視聴し、内容を理解し、考えたことを伝え合う。</li> <li>多くのエシカルマークの存在を知る。</li> <li>興味のあるマークを調べ、プレゼン資料を作り、グループでの発表を行う。</li> </ul>	<a href="#">Earth Day 2020 - YouTube</a> <a href="#">子どもたちの声に耳を傾けよう・「国連環境開発会議」(地球サミット)におけるセヴァーン・スズキさん(カナダ)によるスピーチ(1992年6月、ブラジル、リオデジャネイロ) - YouTube</a>
小単元 ② 6～10	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の自然を体感する。(総合)</li> <li>草木染めの体験を通して、剪定で処理されるはずの枝葉を利用し、自然界から色を頂くことでさえ、SDGsに関わっていることを感じる。(家庭科)</li> <li>色のついた布を袱紗として仕上げる。(家庭科)</li> <li>自分たちで仕上げた袱紗を用いて、茶道体験を行う。(家庭科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校庭の桜の木の剪定作業を手伝う。</li> <li>種類ごとに分け、分類する。</li> <li>剪定の意義や枝葉の処理の仕方を職人さんから教えてもらう。</li> <li>感想を伝え合う。</li> <li>学園のビワやサルスベリ、椿などの枝葉も用意する。</li> <li>アトリエシムラ協力のもと、事前指導や講演会、染め体験を行う。染めた色に自分なりの色の名前を付ける。</li> <li>人間国宝志村ふくみさんの生き方、考え方を体験や講演、動画を通して、感じ取り、感想を共有する。</li> <li>袋縫いを行い、袱紗に仕上げる。また、自分の名前を刺繍する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロフェッショナル仕事の流儀 「いのちの色で、糸を染める～染色家志村ふくみ～</li> </ul>
小単元 ③ 11～15	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sustainability～持続可能性～について自分なりの考えを持つ。(総合)</li> <li>SDGsについて知る。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連想される言葉を3つ挙げるとともに、それ以外の言葉を保護者から7つもらってくる。(家庭を巻き込むことで、学校だけの取り組みにしない)</li> <li>ペアでのマインドマップを作り、それを活かし、クラスのマインドマップを完成させ、考えを共有する。</li> <li>「持続可能な社会」とはどんな社会を指すのか考える。</li> <li>SDGs の概念や 17 の目標について学習する。</li> <li>本学園中学生と連携してSDGsの共同ワークショップを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Mundi2020August (企業連携×SDGs 特集) / 2018 August(フードバリューチェーン特集) / 2016 January(食卓から世界を旅する特集)</li> </ul>
小単元 ④ 16～18	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業のSDGsに関する取り組みを調べ、共有する。(国語)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの取り組みをしている企業を調べる。</li> <li>17の目標ごとに企業の取り組みをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切って使える SDGs アイテム</li> </ul>
小単元 ⑤ 19～25	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs に取り組む「サミットストア」についての实地調査がより有効になるような見方、方法を考える。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>实地調査について、効果的な見学になるよう、見学時のポイントを考える。</li> <li>サミットストア喜多見店の取り組みを予想する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次で仕上げた企業調べの作品</li> <li>店舗の写真や図面</li> <li>Mentimeter</li> <li>切って使える SDGs</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業調べで出てきた「サミットストア」のSDGsの取り組みについて、出張授業を受け、実際に店舗訪問し、児童自らSDGs取り組みを発見する。(総合)</li> <li>・サミットストアの取り組みを地元住民に発表ためにまとめることで社会貢献につなげる。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業(サミットストア喜多見店)にて課題の提示からこれからの学習活動の予定を立てる。</li> <li>・サミットストアを実際に訪れて、取り組みを発見する。</li> <li>・その取り組みをまとめ、店舗に掲示し、お客さんの意識変化調査をする。</li> </ul>	<p>アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Adobe Spark</li> </ul>
小単元 ⑥ 26～ 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界に目を向け、オーストラリアが行っているSDGsの取り組みについて出張授業から理解する。(総合)</li> <li>・ウクライナからの難民との交流から難民問題について興味を持つ。(総合)</li> <li>・mundi May2018の世界のごみ問題の記事を読み込み、世界のごみ現状について考える。(国語)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア大使館による出張授業からオーストラリアがナッツに関わるSDGsの取り組みに力を入れていることを参事官からインタビュー調査する。</li> <li>・ウクライナ難民問題について詳しく調べる。</li> <li>・mundiを読み込み、世界のごみ問題、廃棄物管理についての知見を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業 オーストラリア大使館 商務部/参事官</li> <li>・ウクライナ難民による講演</li> <li>・mundi May2018</li> </ul>
小単元 ⑦ 第一次 31～ 33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国本学園に提案!SDGsの取り組みプロジェクト」という題でスピーチを行うことで自分達がリアルでできることを考える。(国語)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが国本学園で実現できそうなSDGsのプロジェクトをPowerPointを使い、スピーチ形式で提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PowerPoint</li> </ul>
小単元 ⑦ 第二次 34～ 37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UNIQLOとBOOKOFFの出張授業を受け、両企業が行っているSDGsの取り組みについて理解する。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業(UNIQLO 砧店)にて、服のチカラや難民の実態についての講義を受け、理解するとともにこれからの学習活動のイメージをする。</li> <li>・出張授業(BOOKOFF 広報部)にて、査定の仕事、売値の付け方、また、リユースについて深く考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業 UNIQLO 砧店店員</li> <li>・出張授業 BOOKOFF 本社広報部</li> </ul>
小単元 ⑦ 第二次 38  本時	<p>UNIQLO “届けよう服のチカラ”プロジェクト/BOOKOFF “査定店舗体験プロジェクト”の達成目標を決め、計画を立てる。(総合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両企業のプロジェクトからSDGsのゴールに戻り、そこから自分たちが今この学園でできることを模索する。みんなで意見を出し合い、学習課題を設定し、行動に移す道筋を出し合う。</li> </ul> <p>&lt;UNIQLOプロジェクト&gt; →誰からどこでどのように古着を回収するか、どんな呼びかけ方法があるのか、回収後のことはどうするのかなどを考える。</p> <p>&lt;BOOKOFFプロジェクト&gt; →古本を回収をするための工夫、模擬店開設のための準備や工夫について、売り上げの行方などを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Mentimeter</li> <li>・ロイロノート</li> </ul>
小単元 ⑦ 第二次 39～ 48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両プロジェクト成功のための準備を見通しを立てながら実施する。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服や古本の収集の仕方や模擬店をする際の役割分担など考え、小グループごとに話し合いながら、準備を行う。</li> <li>→学園に出す手紙、呼びかけ、廊下に貼るポスター、CM、ポップ、値付け、仕分けなど</li> <li>・途中経過を企業に報告し、アドバイスをもらい、今後の準備に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノート ZOOM</li> </ul>
小単元 ⑦ 第二次 49～ 53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収した古着、古本を自分たちで値付けをし、収益を考えながら販売し、両プロジェクトを完遂する。(総合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の文化祭/学習展示発表会にて、BOOKOFF 模擬店を各グループごとに出店する。</li> <li>また、古着の回収も同時に行う。</li> <li>→ “服のチカラプロジェクトで国連高等弁</li> </ul>	

		<p>務官事務所を通して難民に届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの様子をムービーや写真で残す。</li> <li>・買った方や古着の提供者にインタビューをする。</li> </ul>	
小単元 ⑦ 第三次 54～ 58	・両プロジェクト達成のまとめを行う。(総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムービーや報告書にてまとめ、保護者や学園関係者、地域の方々へHPや学園誌、サンクスポスターなどで外部に活動報告する。</li> <li>・店舗ごとに話し合いながら、寄付先を決める。</li> <li>・売れ残ったものをまとめ、</li> <li>・企業への体験報告をし、講評をもらう。</li> </ul>	・ZOOM
小単元 ⑧ 59～ 60	・2年間の総復習として、これからの自分たちにできること、考えなければいけないことについて考え、卒業作文としてまとめる。(国語)	・2年間の仕上げとして、「何をやめるべきか？何を残すべきか？新たに創るべきものは何か？」をテーマに卒業作文を書き、卒業アルバムに添付する。	

## 8. 本時の展開 (概略)

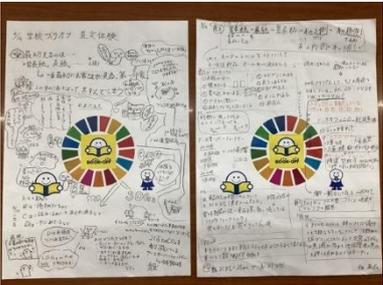
本時のねらい：両企業のSDGsの取り組みから、自分たちがこれからできる活動を考え、提案し、その活動がより有効的になるように達成目標や課題について考えることができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<p>1、UNIQLOとBOOKOFF、両企業のSDGsの取り組みを振り返る。</p> <p>「2つの企業の取り組みを実際に社員の方から聞きましたが、特に印象に残ったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業独自の手段や方法でいろいろな工夫が見られた。</li> <li>・知らないことばかりだった。</li> <li>・UNIQLOは目標1、12、BOOKOFFは目標12についての取り組みだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな視点からの感想になるように質問する。</li> <li>・SDGsのことが出たら、SDGsカードを用いて視覚的に分かりやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業で使用したスライドを提示する。</li> <li>・SDGsカード (小 or 大) (JICA)</li> </ul>
展開 (35分)	<p>2、自分たちが今行動できる取り組みについて考える。</p> <p>「2つの企業の取り組み(服の回収・査定と値付け)と以前やった国本学園でできるSDGs提案スピーチを参考にこれからみんなでできる取り組みを考えてみましょう。」</p> <p>&lt;行き詰っているようだったら…&gt;  「実は同じような取り組みを挙げてくれた人がいます。ここで紹介してくれませんか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具のリサイクルショップ</li> <li>・本の交換スペースの設置</li> </ul> <p>「グループで挙げた内容でいいなと思うものを発表してください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで使わなくなった服を集めよう。</li> <li>・服のついでに読まなくなった本も集めてし</li> </ul>	<p>範囲が大きくなりすぎないように両企業の取り組みをベースに考えさせる。</p> <p>行き詰っているようだったら、左の発問をし、全体や小グループに共有する。</p> <p>個人で考えた後、小グループに分かれて、意見の共有を行う。</p>	

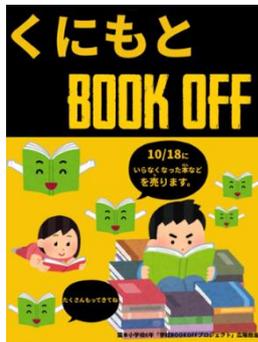
<p>まっ、BOOKOFF のような店を作りたい。</p> <p>3、活動内容の達成目標や問題点・課題などを探る。 「服を集めることやリサイクルショップで販売するなど、とてもいい案が出ました。実施に向けて、達成目標や想定される課題や問題点などを探ってみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標はやっぱり SDGs に関わらせよう。</li> <li>・みんなにプロジェクトの周知をさせるには、呼びかけやポスターが必要なのでは？</li> <li>・時間と場所の調整はどうしなければいけないのか？</li> </ul> <p>4、友達の意見から課題や問題点の追加と次回の授業課題の確認。 「友達が挙げた問題や課題の中で、これは必要だな重要だなと思われるものは自分のシートに追加しておいてください。また、プロジェクト後には、君たち自身が SDGs の目標に対してどんなことに貢献できたかを考えてもらい、どう後輩や学校、地域の方に広めていくかも考えてもらいますので、そのことも頭に入れながらプロジェクトを進めるようにしましょう。」</p> <p>まとめ (5分)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンキングツールを使い、まとめ方がバラバラにならないようにする。</li> <li>・各自考えたシンキングツールを提出させる。</li> <li>・時間があれば、何個か子どもが挙げた問題を解決してあげてもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad</li> <li>・ロイロノート</li> <li>・Mentimeter を使ってもよい</li> </ul>
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） より有効的にプロジェクトが進んでいくように達成目標を考え、実施にあつたつての問題点や課題、方法を考えることができるか。 (ロイロノートでのまとめと児童の発表の様子)</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携 &lt;外部との連携&gt; 「UNIQLO」や「BOOKOFF」などの大企業を巻き込んだ SDGs 関連の取り組みを行いたいとお願いしたところ、既存のプロジェクトを国本バージョンとして提供してくれることとなった。また、各企業の社員の方がゲストティーチャーとして関わり、課題提示から問題解決の相談までアドバイザーとして、学習活動に携わっていただくことによって、子どもたちのモチベーションが上がるのではないかと。 &lt;学習方法&gt; PBL 型の学習による探究的な学習を行う。</p>			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園教員研修として報告書を学園内に共有。来年度への引き継ぎ。</li> <li>・学内では6年生2クラスによる実施。</li> <li>・本学園の中学生との SDGs 交流授業の実施。</li> <li>・来年度は国際をテーマにオーストラリアの日本人学校と連携をして学習を進めたいと考えている。</li> </ul>			

## 【自己評価】

12. 苦労した点	<p>本校本学年独自のカリキュラムを作成し、完全オリジナルのプロジェクトだったので、企業との打ち合わせや学園、地域の振興組合などにプロジェクト参加のお願いや関わり合い方など多くのことが初めてのことばかりであった。事前に学園や地域組合、企業と話を進めておきながら、子ども達のアイデアをスピーディーに実現させるための下準備に苦労した。多くの先生方の協力や学校の理解が必要なので、事前に理解者を増やしておく必要がある。</p>
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

13. 改善点	<p>企業とのプロジェクトなので、学校や多くの先生方の協力が必要である。また、年度のはじめにガチガチにカリキュラムを作るのではなく、子ども達の声を反映できるような時間設定、方向転換できるような柔軟に対応することを前提に進めるとよい。</p>
14. 成果が出た点	<p>企業（BOOKOFF 広報部や近隣の UNIQLO の社員）の方に来てもらい、企業の行っている SDGs の取り組みについて講演してもらった。その中で、子ども達は多くの質問をし、自分たちが実際にできそうなことを考えるきっかけとなった。講演を聞いて、まとめたプリントには、数多くのアイデアが書かれていた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>本学園で自分たちが取り組める活動を考え、スライドを使いスピーチを行った。人数分のアイデアが出て、子ども達の視野の広がりが見られた。</p>  <p>企業の講演や自分たちのスピーチののち、子ども達は、リユースに注目し、「不要になったものに、もう一度命を吹き込もう」という考えから、家庭で使われなくなった子ども服や古本、サイズアウトした制服を集める「学校 BOOKOFF プロジェクト」と「服のチカラプロジェクト (UNIQLO)」を行ってみようとして子ども達の中から意見として出た。実施にあたって、最終ゴールを子ども達と設定することができた。</p>  <p>子ども達からの要望で店舗担当者別の会議を行った。そこで出た議案や決定事項を店長や関係担当者に伝え、各店舗のオリジナリティを大切にさせるため、店長と担当責任者でさらにブラッシュアップし、チーム内で情報を共有していた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

店舗ごとに話し合い店舗設備の作製を行った。どの店舗もオリジナリティあふれるものとなった。また、各部署の先生方に活動の説明を行ったり、保護者向けの手紙を出したり、サンクスカード（協力してくれた方に10%OFF券を配布）や学園中にポスターを張るなどの申し出があり、基本的にはできることは許可子ども達に任せた。



**着れなくなった制服/読まなくなった本 集めます!**

熊本幼稚園の保護者様へ

私共保育は50名に関する学年を2年間取り組み、準備期間や30、金額の取り扱ひなど大変な事になりました。今年度はお返しは、ブックオフに譲渡して熊本学園の書籍から回収した古本や制服を販売し、その収益を営の中に還元していきたいと考えております。この取り扱ひは、物の寿命を延ばしていくことが、リデュースにも繋がります。

本や制服、目を集めることで、不要になった物をただ捨てるのではなく、循環させることでゴミが減り環境にも良いと思います。古本は待機でも制服や子供服はサイズアップしたもので結構です。ぜひ、皆様からのご協力を期待しております。

**回収について**

- ・制服(サイズアップした制服)
- ・子ども服 (サイズから4歳-10歳)
- ・古本 (読まなくなった本)

**販売について**

18日 9時30分-12時00分 / 19日15時-18時15分(予定)に、お申し込みいただけます。詳しくはご来校ください。

熊本学園大学 国際理解教育センター 企画部



活動の宣伝のおかげか、小学校保護者だけでなく、多くの方々に協力を頂いた。集めている最中にもっと多くの方々に協力を得たいということで、喜多見商店街振興組合にも声をかけたとの意見が出て、実施した。

- 回収した制服：幼稚園約100着 小学校約300着
- 回収した古本：2988冊
- 回収した子ども服：1668着



店舗体験当日。前日までにすべての本と制服に値付けをし、接客に向けての振り舞いやマナー講座を実施することで、子ども達は自信をもって接客をしていた。



10月19日・22日・23日の3日間の総売り上げは196,705円。この売り上げを学校のため、社会のため、世界のためにどのように使うかを子ども達が相談し、寄付先を決定した。この話し合いが今回のプロジェクトで一番時間がかかった。子ども達の真剣な思いが意見となり、子どもたち同士の心を動かしていった。また、売り上げ金額や寄付先を報告するために、各部署の保護者向けへの手紙の配布、サンクスポスターの作製など子ども達から意見が出た。



学校BOOKOFFプロジェクトのご報告



幼稚園の保護者様へ

私たち6年生が実施したプロジェクトにご協力いただき誠にありがとうございました。書籍のあげは地蔵堂の制服が100着以上、本は全部で約500冊も集まりました。こんなに沢山集まったのは、皆様のおかげです。本や制服、子ども服を持ってきてくださりありがとうございました。

10月19日・22日・23日に保護者向けに古本や制服を販売した結果、約20万円の利益を得ることができました。そのうちの12万円をユニセフやWWFジャパン、国境なき医師団、日本赤十字社、あしなが育英会に寄付し、残りを国本学園（幼稚園や小学校）に寄付します。今回売れ残った本に関してはブックオフが運営しているクラウドファンディングサイト『キモチ。』を通して、寄付しました。

子ども服に関しては、1700着ほど集まり、その服をユニクロの協力のもと、国境なき医師団事務所を通してアフリカの難民に届ける仕組みとなっています。幼稚園の保護者の皆様、今回は国本小学校BOOKOFFプロジェクトでたくさんのお金を集っていただきありがとうございました。また、世の中の役に立てるようこれからも頑張りますので、よろしくお願いたします。



学校BOOKOFFプロジェクトのご報告

古本、子ども服の寄付ありがとうございました。

おかげさまで、子ども服は約1700着あつまり、本は約500冊集まりました。収益は20万円で、そのうち12万円は「ユニセフ」、「WWFジャパン」、「国境なき医師団」、「あしなが育英会」に寄付し、残りの8万円は国本学園に寄付させていただきます。子ども服は国境なき医師団事務所を通して、アフリカの難民に寄付される予定です。

出品者	河井 健佳	菅野 寧々
現金の寄付先 ひのき組 B班 団体名「ユニセフ」 理由 難民の食料や、住居などを与えることができ、また、病気で苦しむ人々を助けられるから。	現金の寄付先 ひのき組 C 班 団体名「WWFジャパン」 理由 人間の都合で、生き物が亡みやに殺されることはあってはならないことだと思ったから。 ほかの寄付先と比べて、WWFジャパンは寄付金が少なかった。人間が関与する寄付先だけにお金が集まるのはおかしかったから。	現金の寄付先 けやき組 B 班 団体名「国境なき医師団」 理由 学校の授業で、国境なき医師団の活動や難民が苦しんでいる現状について学び、海外で働くスタッフの人たちの思いや願いを、この機会を通して応援したいと思った。また、体の備だけではなく、心の備もおいていけるから。
11月1日(土) 14:32	下田 祐郎	生駒 俊樹
現金の寄付先 けやき組 A班 団体名「日本赤十字社」 理由 赤十字に現金と言う形で寄付によって国内災害や国際活動に貢献して災害や紛争によって苦しみ余を失っている人達を救済することができると思ったから。 逆に自分が災害などで苦しむ立場になった時に寄付をする事で自分達のためになると考えたから。	現金の寄付先 ひのき組 A班 団体名「unicef」 理由 クラウドファンディングの機会は今話題になっているので国産品がユニセフやWWFなど本物かわからないので安心して買いたい。また、ユニセフやWWFは国産品に比べて見えない難民のことに気づかせることができる。ユニセフやWWFの活動について一層詳しく知ることができると考えたから。	現金の寄付先 けやき組 C 班 団体名「あしなが育英会」 理由 幼い時に負った傷はなかなか消えませんが、あしなが育英会では他の団体では行っていない心のケアを行っているのを選びました。
11月2日(水) 14:55	2/3	11月4日(日) 11:11
		2/3
		11月4日(日) 15:17
		2/3

今回のプロジェクトの最終報告会。BOOKOFF 本社にて、代表店舗の児童が取締役や広報部社員の前で活動報告を行った。大人の前で、自分たちが学んだこと、感じたこと、気づかされたことを自分の言葉でプレゼンした。この報告会を6年児童のほかにも保護者、学園理事などにも ZOOM で配信をし、締めくくった。(下記に感想あり)



2年間のSDGsの点として散らばっていた学習が、子ども達の心の中で線としてつながり、「自分ができる社会貢献は何か」と問う思いが面として広がっていくのを間近で感じる事ができた。また、「企業とお客さんの自分」という意識が、企業との活動を通して「社会につながる自分」を感じることに変化し、自分が行動することで社会を支える力になれることを理解することができたプロジェクトとなった。

#### 15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

<児童が書いた「活動全体を通しての感想」>

「素敵な2年間、貴重な体験」

私は、BOOKOFF や UNIQLO と一緒に SDGs のことを学んでお店を出して、売れ残った本も難民に届ける事が出来てすごく良かったと思います。私達はお店を出すにあたってチームのみんなと沢山相談しました。そして、お店で得た利益をどのように使うのか何に使うのかをみんなで考え、意見が割れる事もありました。どこに寄付をするかをきちんと学んできたことを思い出しながら決めました。すごく大変な作業もありましたが、この前の報告会を聞いてやって良かったと感じました。報告会では今まで自分達が頑張ってきた事ややってきた事を説明していました。皆凄く一生懸命に話し、頑張ってきたことが伝わってきました。斎藤先生が最後に今までやってきたことを振り返り、SDGs について初めて学んだアースデーから、今まで学んだいろんなことを思い出させてくれるようなことを発表してくれ、今までやってきた事はもう2度と体験できないかもしれない貴重な体験だったんだなと思いました。私はこの体験をしてSDGs というものを身近に感じ、今まで知らなかった事や気付かなかったことなどを学ぶことができました。凄く貴重な体験をさせてくれたみんなに感謝したいです。

「僕が感じたこと」

僕は、この学校 BOOKOFF プロジェクトを通して、SDGs や世界の難民について学ぶことが出来たし、実際に世界の難民の方々のために活動を行うことが出来た。このような活動を行うことで、今後も難民やSDGs についての関心が薄れることはなくなると思うし、それによってさまざまな活動、例えばゴミ拾いや募金活動も積極的に取り組めるようになるだろう。さらに、学習展示発表会でも地域の人や保護者様にも自分達が行っている活動の意味やSDGs のことについて知ってもらうことが出来たので、これによって難民についての話題が世界中に広がるので、2030年までにSDGs の17個の目標も達成に近づくとと思う。5年生の頃から続けてきた活動がようやく1回目の節目に差し掛かったので達成感が溢れていて、この活動にあまり興味なかった僕でも、次の世代にもこの活動を続けてほしいと思うようになった。

「意味のある一歩」

僕は国本のブックオフプロジェクトの報告会を見て、改めて、いらなくなった古本、制服、子ども服など、それらを必要としている人に売るという作業は循環型社会に一歩踏み出すことに貢献できたと思っています。いらなくなった古本、制服、子ども服の売り上げは国本小学校に

寄付したり、『国境なき医師団』、『あしなが育英会』、『WWF ジャパン』などの世界の SDGs に貢献するための機関に寄付をしたりしました。このプロジェクトは、最初から最後まで、全てが、SDGsにつながっていてすごいなと思いました。僕は、報告会の様子を zoom で見ました。そこでは、3つの班が国本の代表として、ブックオフ本社でプレゼンをしてました。ブックオフの方達その国本のブックオフプロジェクトの活動内容を褒めてくださりました。僕はとても嬉しかったです。国本小学校の一員で、このプロジェクトに参加することができてよかったと思いました。

<活動を終えて、企業（BOOKOFF）の取締役の前でプレゼンを行った児童の作文>

「ブックオフでのプレゼンテーション」

人生でこんな体験するのは初めてだった。自分が小学生の時にこんな大企業の前でプレゼンテーションをするなんて思ってもいなかった。そして今日はプレゼンテーションをする日の当日。今は、ブックオフの本社で、自分がプレゼンをする番を待っている。私はすごく緊張して、心臓が飛び出そうだったが、今まで古谷さんと一緒に頑張ってきたことを思い出し、必死に自分を落ち着かせた。私が発表するのは三番目。前の人の発表が終わり、ついに私と古谷さんの番になった。さっきまで落ち着いていた気持ちが、前に立って、社員の方々と見ると、さらに緊張してしまった。始める前に、大きな深呼吸をして、始める。プレゼンはうまくいった。途中で少しハプニングはあったが、後々動画を見たら、練習の時よりは上手くなっていた。みんなの前でのプレゼンが終わった途端、体中の力が抜けて、一気に眠くなった。そういえば、私はこのブックオフの本社でプレゼンをすると決まってからの3週間、毎日昼休みを削りながら、古谷さんと原稿を考え、本番で写す資料作りに取り組んできた。ときには、意見のぶつかり合いを起こしながらも、プレゼンをやりたかったの人たちのために、頑張ろうと思った。ブックオフで使う名札作りもこだわった。前日に、統一感を出すために、名札の書き方を二人で相談した。それぞれの紙の方端に、SDGsのマークと、ブックオフの公式キャラクターのよむよむ君を張り、自分の名前と小学校、そして好きな本の紹介を書くことにした。今まで頑張ってきたものが、今ここで発揮できた。私には、その事実が嬉しくて、嬉しくて、飛び上がりそうだった。

すべての人がプレゼンを終えた後は、ブックオフの社内の見学をした。ブックオフの本社は、大企業の本社にしては、すごく小さいな、と思っていたが、社員さんによると、ブックオフでは、それぞれの店舗の方を大切にしているため、本社では、本社にかけのお金を最小限にしているそう。私は、その考え方は、とても良い考え方だと思った。そして、社内を見て回った。どの階を回っても、必ず笑い声が聞こえてきて、楽しそうな職場だった。けれど、みんな情熱を持っていて、真剣な様子でパソコンに向かっていて。本社を出る頃には、私たちが最初に本社に入った時よりも気持ちが和らいでいた。この体験は、将来必ず生かされていく体験だと思う。そして、私は実際にその体験ができた人として、これから必ずその体験を生かしていきたいと思う。

『少しでも、困っている人の役に立ちたい』

そんな思いを持って、私は報告会に臨みました。

二〇二一年四月に始まった SDGs 活動。SDGs の目標について、企業の活動について、私たち六年生は本当に様々な分野のことを学び、自分たちなりに考えてきました。その活動の成果を私は、今回の報告会で発揮できたと思っています。

取締役の方や広報担当の方々などの BOOKOFF の社員さん、そして国本の保護者の方々、たくさんの方の前でスピーチをすることは初めての体験でした。それにもかかわらず、私はあまり緊張しませんでした。それは、たくさん練習を重ねてきたから、という理由もあったのですが、一番はやはり、『自分の思ったこと、感じたことを相手に伝えたい』と心の底から思えたからだと思います。今回の活動は、紙の上で考えるだけでなく、実際に活動も行いました。その活動が、日本の、地球の役に立っていると考えると嬉しくなりました。そして、その思いを他の人にも共有したいと思えたのです。

今回私はこの活動を通して初めて外部の方々の前で立ち、自分の意見を伝えました。そこで私は、人に自分の意見を伝えることの大切さを感じることができました。本当に良い経験になったと思います。

そして最後に、世の中を良くするための手段は一つではないということも学びました。大きなことを一つ成し遂げるのではなく、小さな努力をいくつか積み重ねていってもいいのです。その方法を知るために、私はこれからも学び続けていきたいと思っています。

	<p>「すべてを終えて・・・」</p> <p>ブックオフの本社に行ってみて自分達の行ったこと、思ったことを発表することで私たちの考えが少しでもたくさんの人達に知ってもらおうことの第一歩となったと思う。また、たくさんの偉い方達が私達の伝えている一つ一つの言葉に「うん、うん。」などと言った頷きを示してくれた。この方達の様子を見ると、今私達が言っている言葉がちゃんと伝わっているんだなと改めて感じる事ができ、とても嬉しく思った。また、少し嘔んでしまった時でもすぐに切り替えて発表をするという事ができた。さらに、私達の SDGs を勉強したときにまとめているファイルをじっくりとご覧になっている偉い方々を見ると、今まで自分達が体験した様々な経験は巡り巡ってこの瞬間にも繋がっているのだと感じ、国本小学校で沢山の事を学んでよかったと思った。</p> <p>報告会をして数週間経ったが、この「報告会」という言葉を聞くと私は今でもあの日を忘れないでいる。どんな時でも思い出することができる。そして出来れば報告会を行った日に戻り、自分が感じた緊張感、自信にもう一度触れたいと感じている。</p> <p>私達のプレゼンを聞くのが偉い方々だけでなく、ズームを通じて6年生全員の人達、様々な先生もご覧になることで緊張感がさらに高まったが、その分プレゼンを終えた時の達成感は凄まじかった。これらの体験は今後の未来にも関係していくものであると思うので数10年後にプレゼンをする時に今回の感覚を大切にしていこうと思った。</p>
16. 授業者による自由記述	<p>下記、6年生の保護者に向けて出した活動報告の手紙である。この活動に対するお褒めの言葉が、学校や保護者だけでなく、学園関係者、他部署の保護者、地域商店街振興組合などから寄せられた。</p> <p><b>「学校 BOOKOFF プロジェクト」／「届けよう服のチカラプロジェクト」の活動報告</b></p> <p>日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。</p> <p>今年度の6年生の「学校 BOOKOFF プロジェクト」「届けよう服のチカラプロジェクト」において古本や制服、子ども服の回収にご協力いただき、ありがとうございました。この場をお借りし御礼申し上げます。今回のプロジェクトに関して、簡単に報告をさせていただきます。</p> <p><b>&lt;プロジェクト参加のきっかけ&gt;</b></p> <p>昨年度から SDGs 全般について学習し、自分達の身近なもの(学校の草木を使った草木染めやサミットストアへの見学など)や日本企業の取り組みを題材に授業を進め、5年時は主にインプットする学習内容を実践してきました。その中で、JICA 職員の訪問やオーストラリア大使館との授業、国境なき医師団の方たちとの対話、道徳の授業などを通して、SDGs は日本だけの問題ではなく、世界に目を向けなくてはいけないことに子ども達が気づき、自分達の身近でない世界に対してどんな取り組みをしたらよいかを考えるようになりました。その学習意欲はとどまることなく、子ども達から「自分達から行動したい。そして、世界を少しでもいい方向に…」という思いが出てきました。そこで、「本学園で私たちが世界に向けてできる取り組み」をスピーチで出し合い、その中から実際に実現できそうなものを考えていきました。子ども達は、リユースに注目し、「不要になったものに、もう一度命を吹き込もう」という考えから、家庭で使われなくなった子ども服や古本、サイズアウトした制服を集める「学校 BOOKOFF プロジェクト」「届けよう服のチカラプロジェクト」の参加を決めました。</p> <p><b>&lt;活動内容と子ども達の意識の変容&gt;</b></p> <p>今回のプロジェクトを行うにあたり、学年を6つの店舗に分け、社訓を決めました。ここから各店舗のオリジナリティが出てきました。そして、店長や商材、広報や経理、設備などの担当を決め、店舗担当者会議を行いました。そこで出た議案や決定事項を店長や関係担当者に伝えながら、各店舗のオリジナリティを大切にさせるため、店長と担当責任者でさらにブラッシュアップし、チーム内で情報を共有しました。子ども達の自由な発想を壊さないよう諸々の権限や責任は店長に与えた結果、子ども達から、小学校を越え、本学園の幼稚園や中高、学園関係者、商店街にも協力してもらいたいとの意見まで出てきました。そこで、BOOKOFF ホールディングスに協力を仰ぎ、出張授業だけでなく、社員の方をアドバイザーとして本活動に全面的に支援していただきました。また、喜多見商店街振興組合にも協力を仰ぎ、子ども達がポ</p>

スターや手紙を直接配布できるようにしました。6年生だけのプレ店舗体験では、買い付けや値付けにも触れ、よりリアルな企業活動体験を行うことができ、幼稚園保護者向け(10月19日)と小中高等学校保護者と在校生向け(10月21、22日)の3日間の販売活動に繋げることができました。3日間の売り上げについては、学校のため、社会のため、世界のためにどのように使うかを各店舗で相談し、寄付先を決定しました。プロジェクトのまとめとして、先日、理事長先生や校長先生に向けた報告会を実施しました。今後、学園内や地域にはサンクスポスターの配布、BOOKOFF 本社での取締役や社員への報告会も行う予定です。

2年間のSDGsの点として散らばっていた学習が、子ども達の心の中で線としてつながり、「自分ができる社会貢献は何か」と問う思いが面として広がっていくの間近で感じる事ができました。また、「企業とお客さんの自分」という意識が、企業との活動を通して「社会につながる自分」を感じることに変化し、自分が行動することで社会を支える力になれることを理解することができたプロジェクトとなりました。

#### <学校 BOOKOFF プロジェクトの収支報告並びに寄付先の報告>

○回収した制服:幼稚園約100着 小学校約300着 ○回収した古本:2988冊

○販売した古本:約1800冊 → 10月19日・22日・23日の3日間の総売り上げ:196,705円

この売り上げを学校のため、社会のため、世界のためにどのように使うかを子ども達が相談し、寄付先を決定致しました。

12万円→Unicef、国境なき医師団、あしなが育英会、WWF JAPAN、日本赤十字社

残り→国本小学校・幼稚園(屋外/屋内の遊び道具や図書室などへ)

★売れ残った古本に関しては、BOOKOFF が運営するクラウドファンディングサイト「キモチ。」を通して、たくさんプロジェクトに支援する予定です。

#### <届けよう、服のチカラプロジェクトの報告>

今回のプロジェクトでは1668着の子ども服を回収することができました。この子ども服はファーストリテイリングの協力のもと、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)を通して、アフリカの難民に届けられる予定です。

参考資料：特にありません。ご質問等ございましたら、お気軽に「国本小学校(0334164729) 齋藤」まで連絡頂けたらと思います。